

石炭輸送船「ほくリンク（HOKULINK）」への 高純度バイオ燃料「B30」を用いた試験航行実施

2025年6月27日
北陸電力株式会社

当社は、国内の電力会社として初めて石炭輸送船に高純度バイオ燃料「B30」を用いた試験航行を実施することとしましたので、お知らせいたします。

今回の試験航行は、株式会社商船三井と共同で、当社向け石炭輸送船「ほくリンク（HOKULINK）」を対象に実施するもので、6月26日に韓国においてバイオ燃料「B30」の補油を行い、同日当社向け発電用石炭の積込のため、次の積地（豪州）に向けて出航しました。今後、8月頃に当社発電所に入港する予定です。

バイオ燃料は、燃焼時の二酸化炭素（CO₂）排出量を実質ゼロとみなせる^{※1}ほか、船舶の既存の内燃機関の改造を必要とせず使用することができるため、化石燃料に代わる有効な代替燃料とされています。

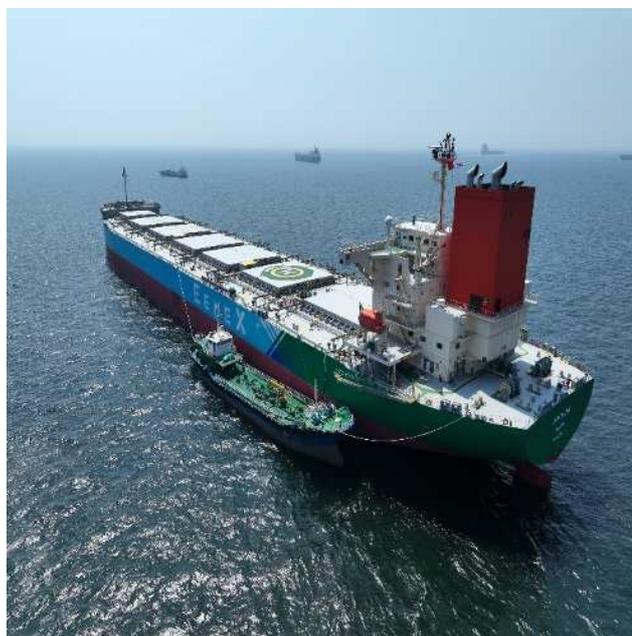
今回使用するバイオ燃料「B30」は、ISCC-EU（International Sustainability & Carbon Certification^{※2}）認証を受け、廃食油などの生物由来の有機性資源（バイオマス）を30%の割合でブレンドした混合油で、従来使用している燃料と置き換えることで、航行時に発生するCO₂排出量をおよそ3割削減する効果が期待されます。

なお、国内の電力会社向けの石炭輸送船において、有機性資源（バイオマス）を30%含む高純度なバイオ燃料を用いた試験航行は、国内初の取組みです。

当社は、今後も2050年カーボンニュートラル達成に向けたロードマップに掲げた取組みを着実に進めるとともに、更なるCO₂削減・脱炭素化の取組みを推進してまいります。



（バイオ燃料補油時の様子①）



（バイオ燃料補油時の様子②）



(ほくリンクの今後の航路予定図)

- ※1 バイオ燃料は燃焼時に二酸化炭素（CO2）を排出するものの、原料となる植物はCO2を吸収してバイオマスを再生産するため、直接燃焼におけるCO2排出量は実質ゼロとみなされることから、「カーボンニュートラル」を実現する化石燃料の代替物として注目されています。
- ※2 バイオマスや廃棄物を原料とする持続可能な燃料について、その持続可能性と温室効果ガス排出削減基準がEUの法的要件を満たしていることを証明するもので、欧州再生可能エネルギー指令（RED II）によって定められています。

以 上